

## 【事業報告】

### 事業の概要

#### <公益目的事業>

##### I. 社会経済史・経営史関係

1. 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第56号（2022年）を刊行した。
2. 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加などをおこなった。
3. 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付（3件）を受け研究を進めた。
4. 三井文庫史料叢書「三井大坂両替店『聞書』2」を刊行した。
5. 三井関係資料の調査・収集は、新型コロナウイルス感染症拡大のため休止した。
6. 閲覧業務は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応のため、昨年度に引き続き完全予約制・閲覧枠制限のもとで実施した。
7. 資料のデジタルアーカイブ構築（デジタル画像による公開、劣化対策並びに災害等に備えたバックアップ作成）のために所蔵資料のデジタルスキャン等によるデジタル複製画像の作成を進めた。
8. 所蔵資料分類目録の整備を進め、所蔵資料目録のデジタルデータベースの公開を開始した。
9. 書庫内の資料保存環境整備を進めた。
10. 公的諸機関（地方自治体史編纂等）の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
11. 三井の歴史に関する講演をおこなった。
12. 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。

##### II. 文化史・美術館関連事業

2005年の開館から16年を経過し、建築・内装・展示ケース・照明・空調・セキュリティー関係随所の設備更新が必要となったため、美術館設立当初のプロジェクトチームメンバーにより検討を重ね、2021年8月23日より2022年4月28日まで休館し、2021年9月より美術館全館改修工事を開始、2022年4月12日に竣工し、引き渡しを受けた。

##### A. 文化史関係（資料の保管・整理・研究事業）

1. 美術館全館改修工事（2021年9月～2022年4月）にあたり、収蔵庫内の空気環境を適正に保ち、工期の区切りごとに4回空気環境測定を実施し、また、展示室・ケース内の空気

環境測定を、工事前と工事終了後、および7月に合わせて5回実施し、いずれも文化庁文化財課・文化財活用センターの指導を受けた。

2. 三井文庫別館の屋根に雨漏りが発生し、屋根の修復工事を実施した。4月4日より足場組、4月20日試験施工、4月25日より本工事に入り、6月1日工事完了。
3. 三井文庫別館の雨漏りに起因するカビが収蔵庫内に発生したため、7月11日～15日収蔵庫内と展示室内を密閉しガス燻蒸を行った。
4. 三井文庫が三井不動産株式会社創立80周年記念事業として1億円の寄付を受け、そのうち美術館として約7割の予算のもとに「三井の文化に関わる社会貢献—過去から未来へ—」のテーマで6項目を立て、今年度は以下の事業に着手した。
  - (1) 「1、収蔵品のデータベース化—②」、美術館収蔵品のなかから約1,000点を選び、当館ホームページ上で公開するデータベース作成作業に着手した。
  - (2) 「3、三井の文化と社会貢献に関する出版—①」、「三井記念美術館 三井家伝世の至宝に関する文化史的考察」の制作作業に着手した。
5. 特別展図録の刊行で執筆の協力をした。

○特別展図録「大蒔絵展—<sup>だいまきえ</sup>漆と<sup>うるし</sup>金の千年物語」(朝日新聞社 2022年4月発行)
6. 『三井美術文化史論集 第16号』を発刊した。
7. 国宝・重要文化財の刀剣6件について、文化庁と東京都の補助金による修理を実施した。
8. 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として、2019年9月17日から2024年9月16日までの5年間、公開承認施設として認定中。
9. 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。
10. 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。
11. 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付を受け、研究を進めた。
  - (1) 基盤(B)「中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究」  
(研究代表者・富田淳:九州国立博物館、研究分担者・清水実) 2022年度39万円(間接経費を含む)
  - (2) 基盤(B)「中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究」  
(研究代表者・富田淳:九州国立博物館、研究分担者・海老澤るりは) 2022年度26万円(間接経費を含む)
  - (3) 基盤(B)「能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究」  
(研究代表者・浅見龍介:東京国立博物館、研究分担者・海老澤るりは) 2022年度6.5万円(間接経費を含む)

12. 他機関からの助成金の交付を受け、研究を進めた。

小林祐子：公益財団法人鹿島美術財団 美術に関する調査研究助成

「近代彩色牙彫の総合的研究—安藤緑山とその周辺を中心に—」2022年度 70万円

13. (1)同志社大学、(2)漆工史学会、(3)日本工芸会に協力して講演会・総会・研究会・見学会を受け入れた。

(1) 5月22日「地域文化産業のSDGsを担う創造環境」第4回研究会（同志社大学 創造経済研究センター主催）において三井八郎右衛門氏講演会「三井八郎右衛門（北家10代高棟）がこだわった建築と工芸、その保存と活用」を対面とリモート併用で行い、清水学芸部長がコメンテーターとして協力した。

(2) 10月16日「漆工史学会」第46回総会・研究会・見学会を開催し、小林上席学芸員が研究発表を行った。

(3) 11月4日「日本工芸会漆芸部門」研究会・見学会を開催し、小林上席学芸員が研究発表を行った。

## B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

1. 2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の発生ならびに拡大防止を重要課題と位置付け、来館者と職員・スタッフの生命・安全・安心を確保しつつ美術館の使命・職務を遂行した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために行った対策は以下の通りである。

(1) 開館時間の短縮（「絵のある陶磁器」展にて開館時間を11:00～16:00に短縮）

(2) 土曜講座、講演会の中止

(3) ナイトミュージアムの中止（「茶の湯の陶磁器」展にてナイトミュージアムを再開したが、8月より中止）

(4) 団体来館の時間差入場のお願い

(5) 来館者に対し、マスク着用、検温、手指の消毒、ソーシャルディスタンスを保った鑑賞のお願い

(6) 職員のマスク着用、手袋着用、検温、消毒、濃厚接触防止のため休憩時間の黙食

なお、文化庁による「文化芸術振興費補助金（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）」として、6,000,000円の補助金交付を受けた。

2. 今年度は、下記5回の展覧会を開催し、2022年4月29日から2023年3月31日までに合計90,903人が入館した。2005年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,516,409人となった。

(1) 「リニューアルオープンⅠ 絵のある陶磁器～仁清・乾山・永樂と東洋陶磁～」

（2022年4月29日～6月26日）入館者数11,476人

- (2) 「リニューアルオープンⅡ 茶の湯の陶磁器～“景色”を愛でる～」  
(2022年7月9日～9月19日) 入館者数17,073人
- (3) 「特別展 <sup>だいまきえ</sup> 大蒔絵展—<sup>うるし</sup> 漆と金の千年物語」  
(2022年10月1日～11月13日) 入館者数27,966人
- (4) 「国宝 雪松図と吉祥づくし」  
(2022年12月1日～2023年1月28日) 入館者数15,363人
- (5) 「三井家のおひなさま 特集展示 近年の寄贈品—絵画・工芸・人形など—」  
(2023年2月11日～4月2日) 入館者数19,025人(3月31日現在)

### Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、田舎家の茅葺屋根の葺き替え、残月の間の柱・壁・床の歪み調整、外壁の修繕工事を実施した。また、老朽化が進んでいた周囲のブロック壁の一部を改修した。

「公開」に関しては、2022年11月21日に箱根町が主催して見学者を募集する箱根探訪会において「松の茶屋探訪会」を開催し、午前10名、午後10名、計20名の見学会を実施した。

#### <収益事業>

##### I. 不動産賃貸事業

三井花桐ビルは、2022年6月に1階のテナントが退去した後、12月に新たなテナントが入居し、現在は全フロア満室となっている。今年度は建物診断、防災盤更新工事、破損した窓の修理を実施したほかは、毎年実施している空調機の加湿器メンテナンス、インターネットセキュリティ診断を実施した。

#### <事務局関係>

##### I. 役員会・役員人事

2022年6月16日に開催された定時評議員会をもって評議員の全員が任期満了となるため、改めてその選任を諮り、新任として粕谷誠氏(東京大学大学院教授)、近藤雅之氏(株)ニッポン特別顧問)が、矢嶋進評議員の後任として加來正年氏(王子ホールディングス(株)代表取締役会長)、辻惟雄評議員の後任として河野元昭氏(公益財団法人静嘉堂文庫・静嘉堂文庫美術館館長)、竹林義彦評議員の後任として仙田貞雄氏(三井金属鉱業(株)名誉相談役)、釜和明評議員の後任として満岡次郎氏(株)IHI代表取締役会長)、佐藤育男評議員の後任として宮内直孝氏(株)日本製鋼所相談役)、芦田昭充評議員の後任として武藤光一氏(株)商船三井特別顧問)、久保田(川崎)素子評議員の後任として吉沢勝氏(富士フィルムホールディングス(株)執

行役員)が、それぞれ評議員に選任された。

2023年2月14日に豊田章一郎理事がご逝去された。

## II. 総務・人事関係

2022年4月に脇澤義久事務局長に替わり堀田勝彦事務局長が就任した。